



# 岡山県内経済情勢報告

令和7年1月30日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先  
財務省中国財務局岡山財務事務所  
財務課長 向井  
TEL (086) 223-1131 内線 411

## 1. 総論

### 【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	改善のテンポが緩やかになっている	緩やかに改善しつつある	

設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超に転じている	「上昇」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、気温高の影響を受け、衣料品などの季節商品が低調なことから前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は、気温高により飲料などが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、エアコンや携帯電話などが好調なことから前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか、日焼け止めなどが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、行楽シーズンを迎えアウトドア用品などが好調だったことから前年を上回っている。乗用車販売は、普通乗用車が増加しているものの、軽乗用車及び小型乗用車が減少していることから前年を下回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 気温高の影響を受け、来店客数が減少したほか、衣料品が低調に推移した。消費するものと節約するものを選択しながら購入に至る「メリハリ消費」の動きがみられる。(百貨店)
- 10月までの気温高の影響から、秋冬商品(衣料品、鍋物商材など)の動きが弱かった。(スーパー)
- 気温高により飲料やアイスクリームが好調だった。また、物価高による節約志向の高まりから弁当などの高単価商品が買い控えられているものの、お手頃感のあるおにぎりなどが好調だった。(コンビニエンスストア)
- 新規出店効果や商品値上げの影響により、来店客数、売上ともに増加している。気温が高い日が続いたため風邪の流行が遅れたことなどにより、総合感冒薬などが低調だったものの、日焼け止めなどが好調だった。(ドラッグストア)
- 物価高で節約志向が高まっていることから客数は減少しているものの、行楽シーズンを迎え水筒などのアウトドア用品が好調だった。また、気温高により、毛布などの季節商品が不調だった一方で、防虫・防草用品などが好調だったほか、相次ぐ強盗事件により防犯意識が高まり、防犯用品も好調だった。(ホームセンター)
- イベントなどの商店街活性化の活動により人流は増加し、コロナ禍前を上回っている。今後もイベントの開催方法の工夫を継続することにより、売上増加に期待している。(商店街)
- 商品値上げの影響や来店客数の増加により売上は増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。特に、天候が良かった11月の行楽シーズンや曜日の並びが良かった年末年始は「メリハリ消費」の動きがみられ、売上増加に寄与している。(専門店)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送用機械は、造船で豊富な受注残を抱えているものの、自動車で減少していることから、概ね横ばいとなっている。化学は、海外経済の回復ペースが緩やかになる中、国内外の需要が低調であることから減少している。汎用・生産用・業務用機械は、国内外の需要が好調なことから増加している。電気機械は、在庫調整の進展に伴う需要の回復により増加している。鉄鋼は、海外向けが低調である中、国内向けにおいても足もとの自動車向け需要が弱含んでいることから、概ね横ばいとなっている。

このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 更新船の増加などにより受注が好調であったことから豊富な受注残を抱えている。(造船)
- 中国の不動産市場低迷などの影響や脱プラスチックの動きから、国内外の需要が減少しており、低調となっている。(化学)
- 好調な受注を背景に一定数の受注残を抱えており、フル生産が続いている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 昨年の状況と比較すると、在庫調整が進み、需要が戻ってきている。(電気機械)
- 中国での鋼材需要の低迷などによる影響を受け、海外向けが減少傾向にある中、国内向けでは、足もとの自動車向け需要が弱含んでいる。(鉄鋼)

## ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が前年を下回っているものの、有効求人倍率は概ね横ばいで推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年10-12月期）の従業員数判断 BSI でみると、「不足気味」超が続いている。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 物価高による収益圧迫などにより建設や製造業などで求人が減少している一方で、慢性的な人手不足となっている運輸、郵便や、インバウンド需要が増加している宿泊では求人が回復する動きがみられている。（職業紹介）
- 運転手の高齢化と退職増加により人手不足が顕著になっている。（運輸、郵便）

## ■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 製造業では、生産能力の増強投資により自動車などで増加見込みとなるものの、前年度に大型設備投資を行った反動から化学や繊維などで減少見込みとなっていることから、前年度を下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、前年度の大型投資の反動により運輸、郵便などで減少となるものの、店舗の新設や改装により小売、金融、保険などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。

- 生産能力増強のほか、施設の老朽化対策や耐震工事のための設備投資を予定している。（自動車）
- 複数の大型設備更新のための設備投資を予定している。（鉄鋼）
- 需要の拡大に合わせた設備増強などを目的に継続して大型の設備投資を行っているが、今年度半ばに完了する予定となっている。（化学）
- 前年度に工場増設の大型投資を行ったが、今年度は主に付帯設備等の新設を予定している。（繊維）
- 既存設備の更新及び生産能力増強の設備投資を予定している。（食料品）
- 前年度に新設物流拠点の大型投資を行ったが、今年度は維持更新が主な内容となっている。（運輸、郵便）
- システムの更新及び新紙幣に対応するための設備投資を予定している。（小売）
- 新店舗建築や太陽光発電の設置を予定している。（金融、保険）

## ■ 企業収益 「6年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 製造業では、原材料費の上昇により木材・木製品などで減益見込みとなるものの、価格転嫁を進めている化学や海外からの需要が好調な生産用機械などで増益見込みとなっている。
- 非製造業では、新規出店効果により小売などで増益見込みとなるものの、人件費などが上昇している卸売や再開発工事に伴う賃料などの減少により不動産で減益見込みとなっている。

## ■ 企業の景況感 「『上昇』超幅が拡大している」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 企業の景況判断 BSI は、「上昇」超幅が拡大している。なお、翌期は「上昇」と「下降」が拮抗する見通しとなっている。

## ■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家や分譲住宅などが減少していることから前年を下回っている。

## ■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出は、品目別では鉄鋼などが減少しているものの、石油製品や化学製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、西欧などで減少しているものの、アジアや大洋州などで増加している。

# 岡山県内経済情勢報告

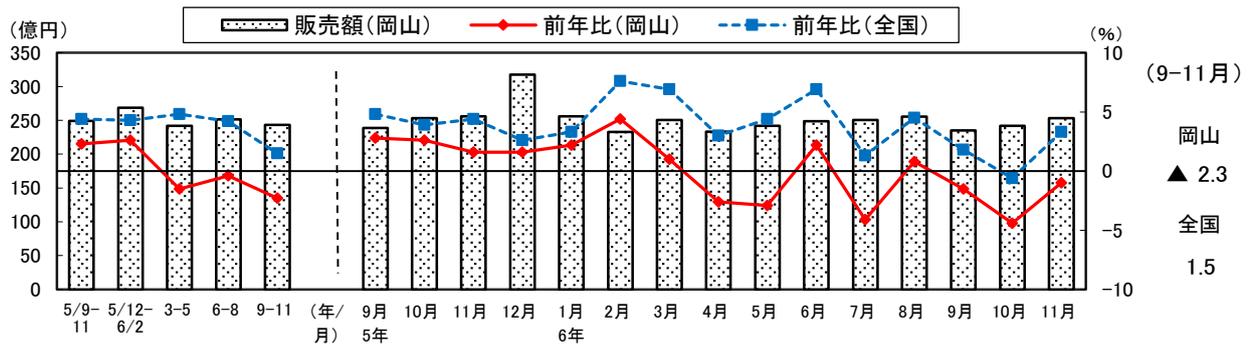
## 資料編

	目次	ページ
1.	個人消費.....	1
2.	生産活動.....	3
3.	雇用情勢.....	4
4.	設備投資.....	5
5.	企業収益.....	5
6.	企業の景況感.....	5
7.	住宅建設.....	6
8.	輸出.....	6

※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

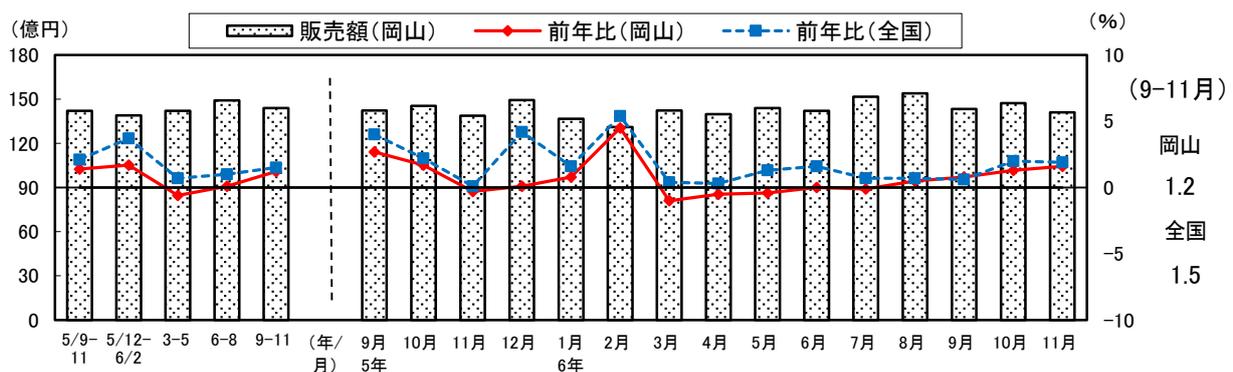
# 1.個人消費 緩やかに回復しつつある

(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比) (注)(1)~(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均



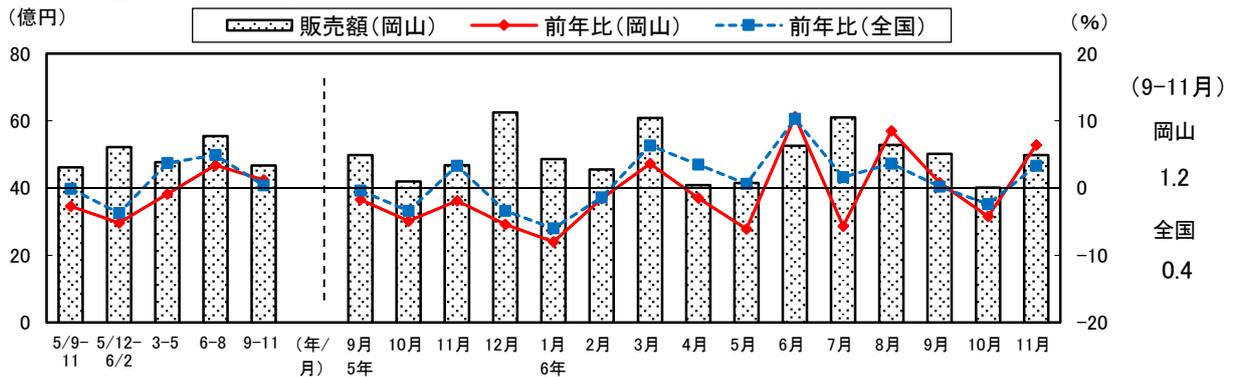
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



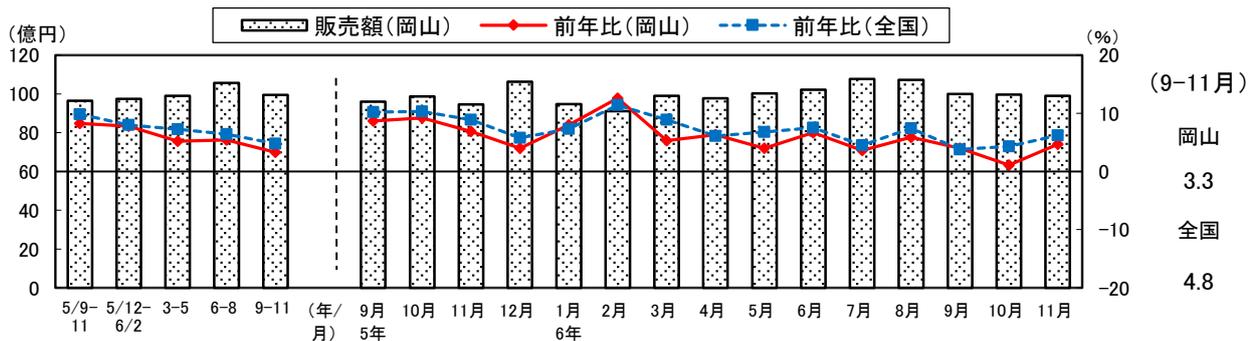
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



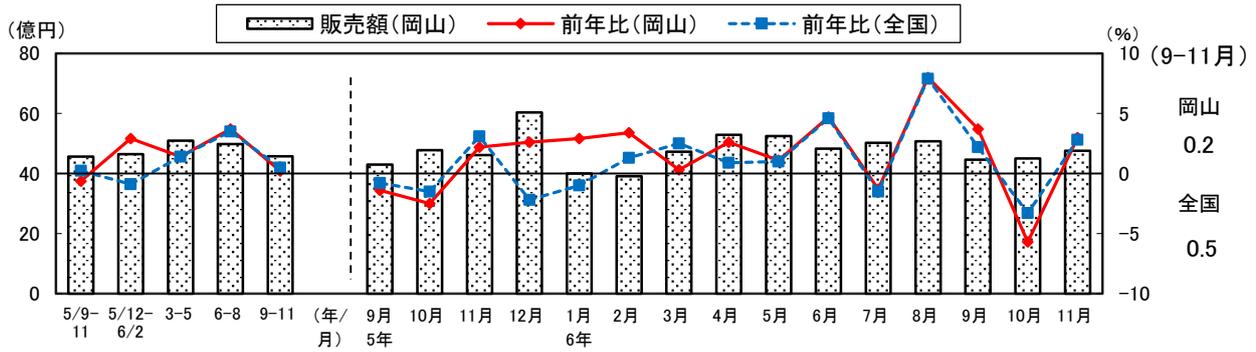
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)

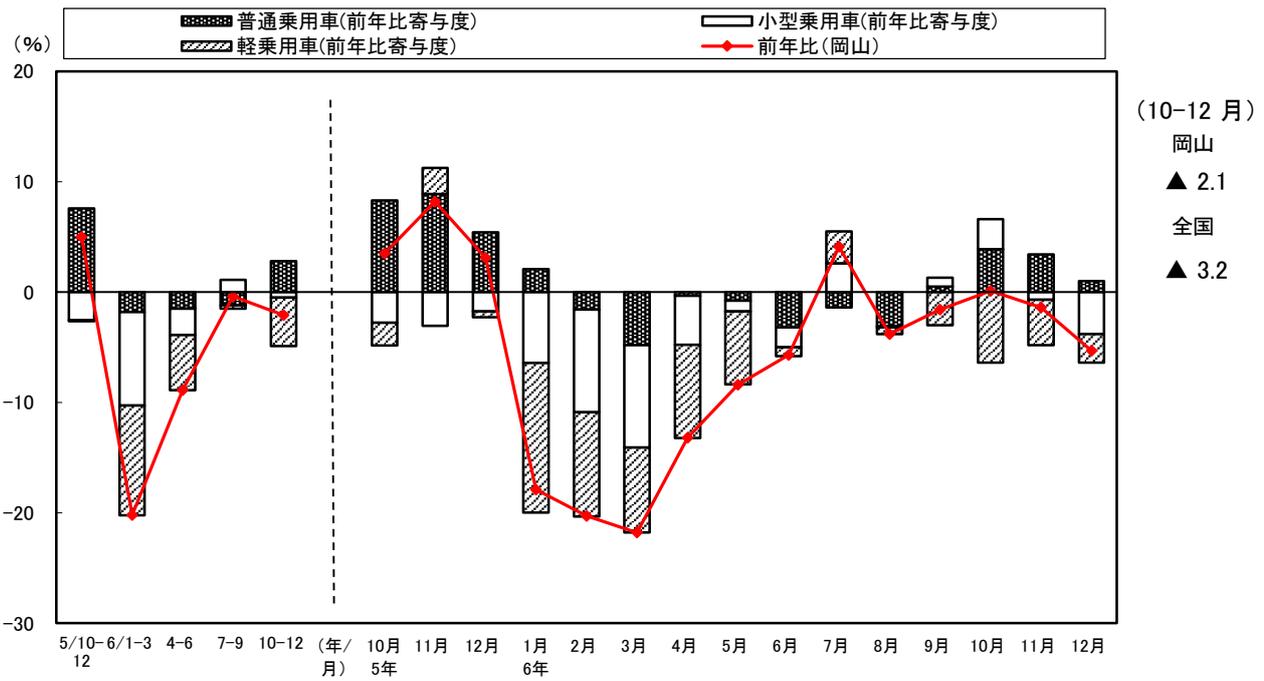


(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



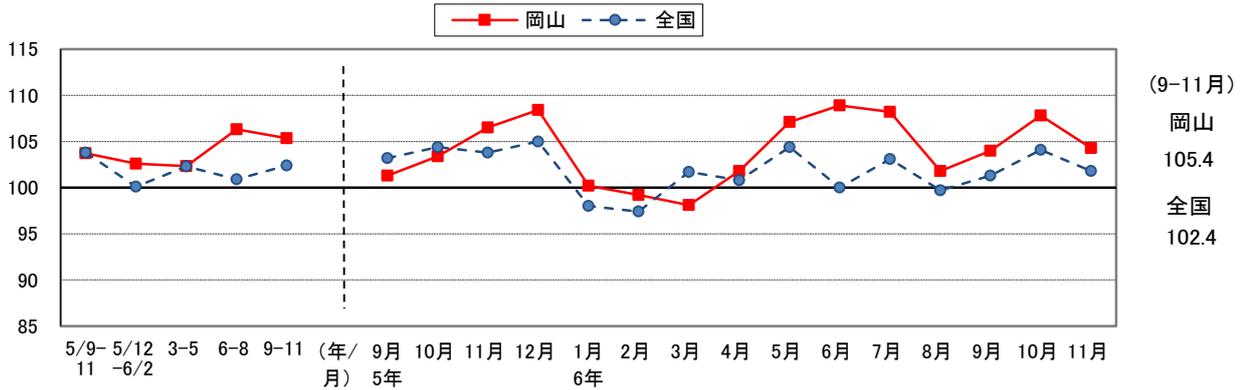
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



## 2.生産活動 緩やかに持ち直しつつある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

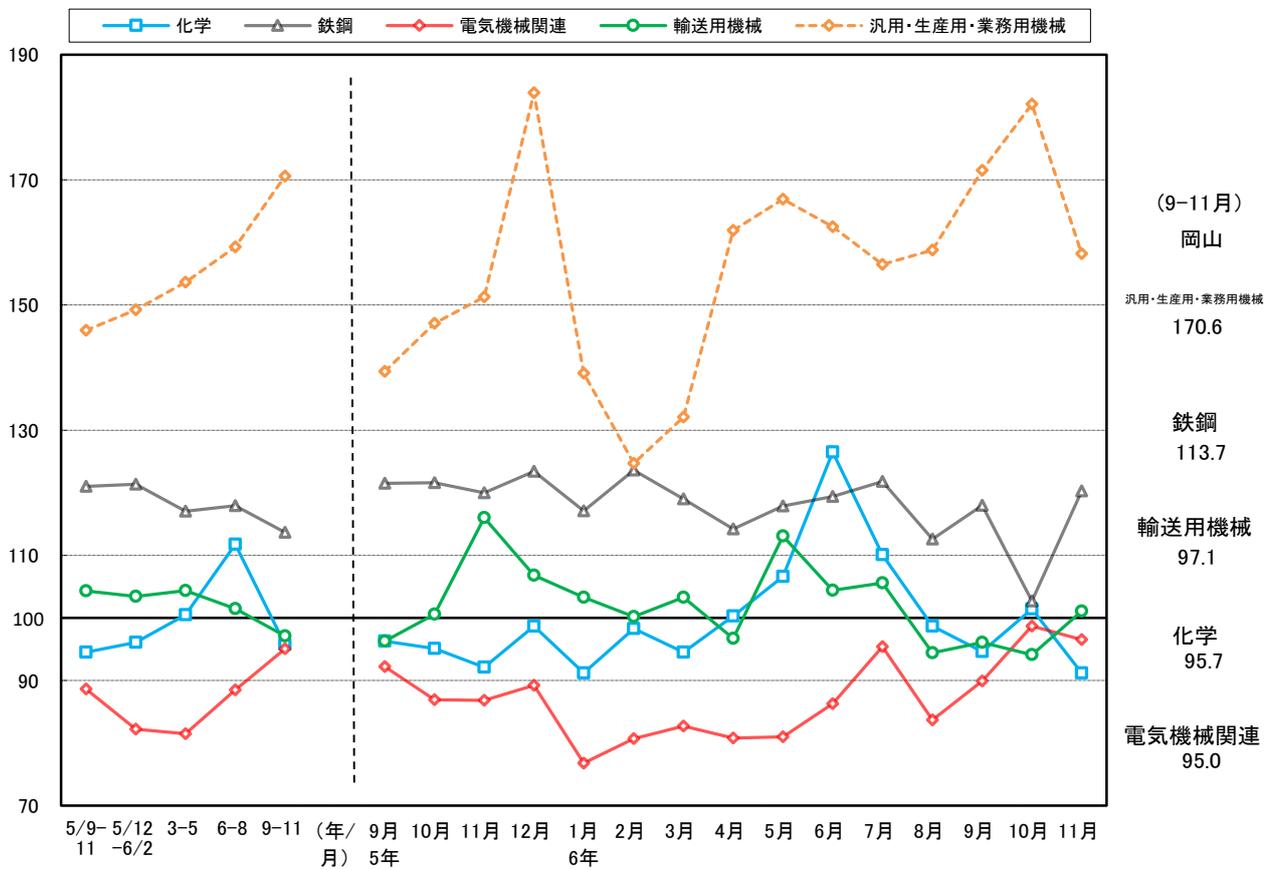
(指数) (令和2年=100)



(資料出所: 経済産業省、岡山県)

(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

(指数) (令和2年=100)



電気機械関連  
95.0

化学  
95.7

輸送用機械  
97.1

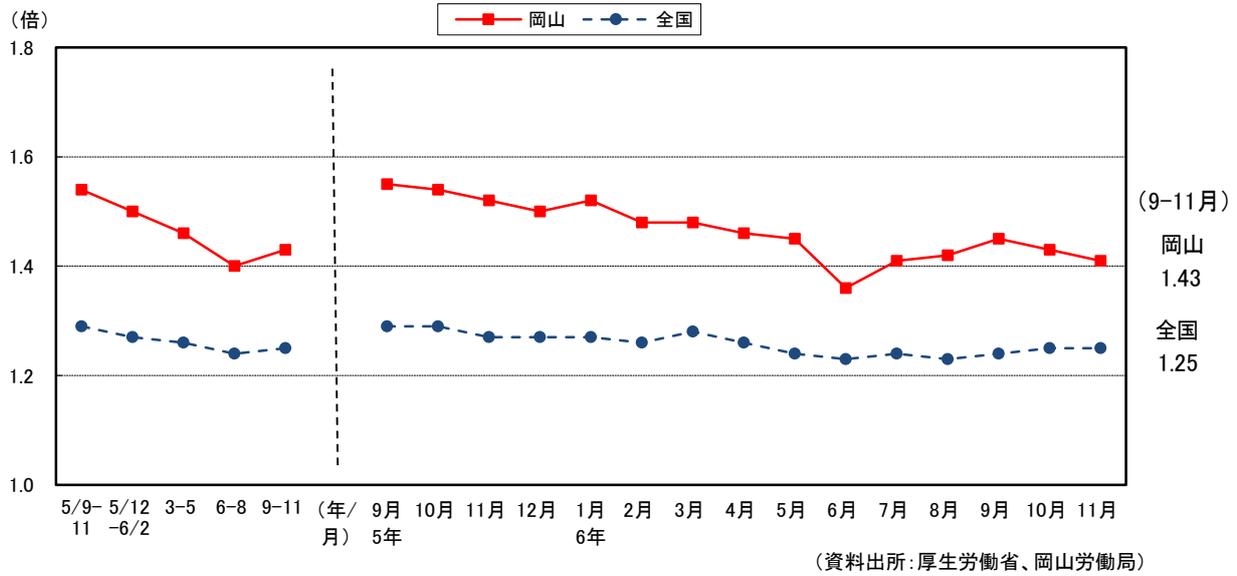
鉄鋼  
113.7

汎用・生産用・業務用機械  
170.6

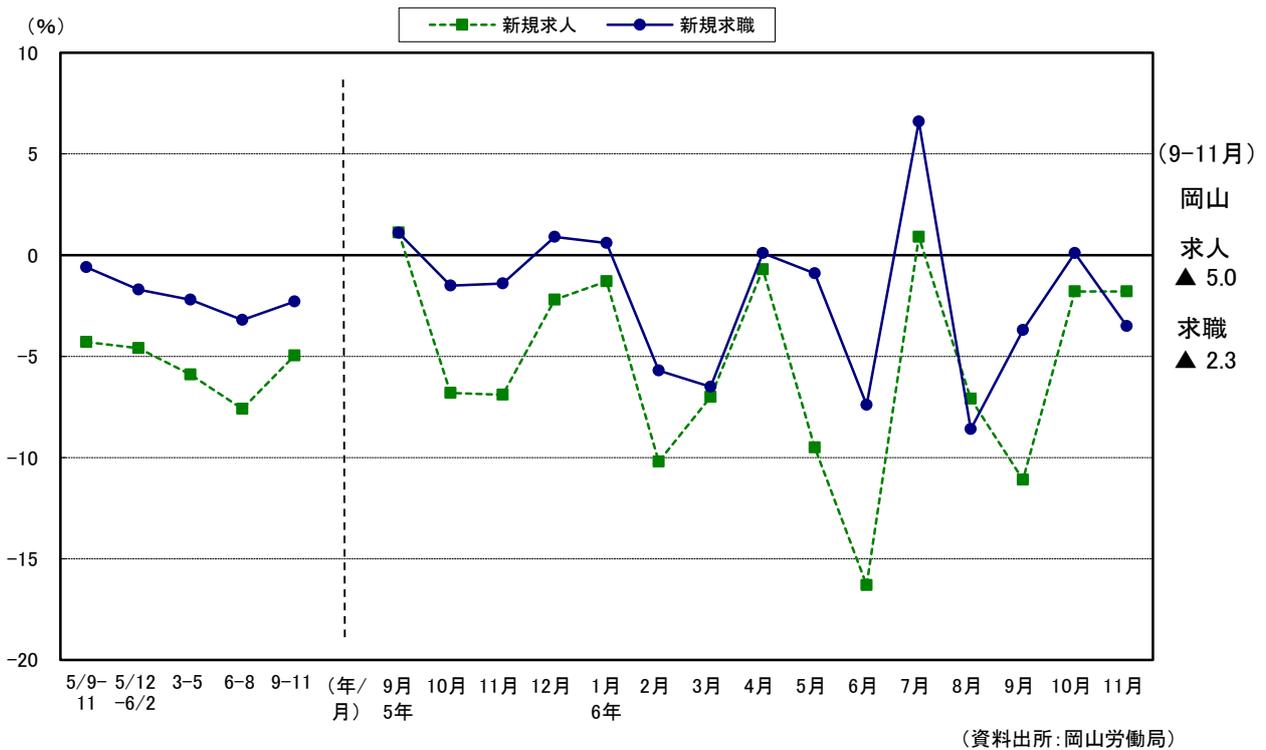
(9-11月)  
岡山

### 3.雇用情勢 緩やかに改善しつつある

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



#### 4.設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資) 6年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率:%)

設備投資	全産業		製造業		非製造業	
	(18.3)	10.6	(7.2)	▲ 0.4	(52.8)	43.8
6年度						

(注)当所法人企業景気予測調査(6年10~12月期)結果  
( )書きは前回(6年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

#### 5.企業収益 (電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 6年度は増益見込み

(前年度比増減率:%)

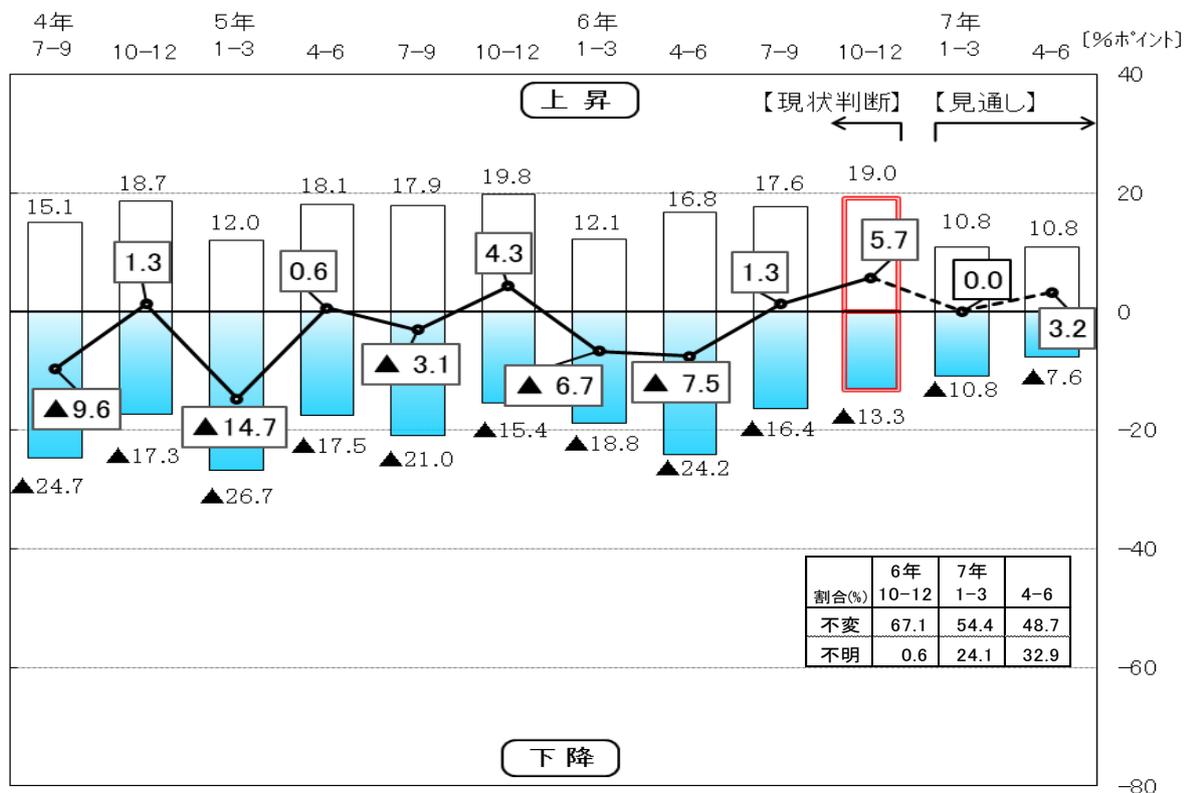
経常利益	全産業		製造業		非製造業	
	(12.9)	16.6	(31.2)	41.4	(▲7.3)	▲ 11.9
6年度						

(注)当所法人企業景気予測調査(6年10~12月期)結果  
( )書きは前回(6年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

#### 6.企業の景況感 「上昇」超幅が拡大している

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

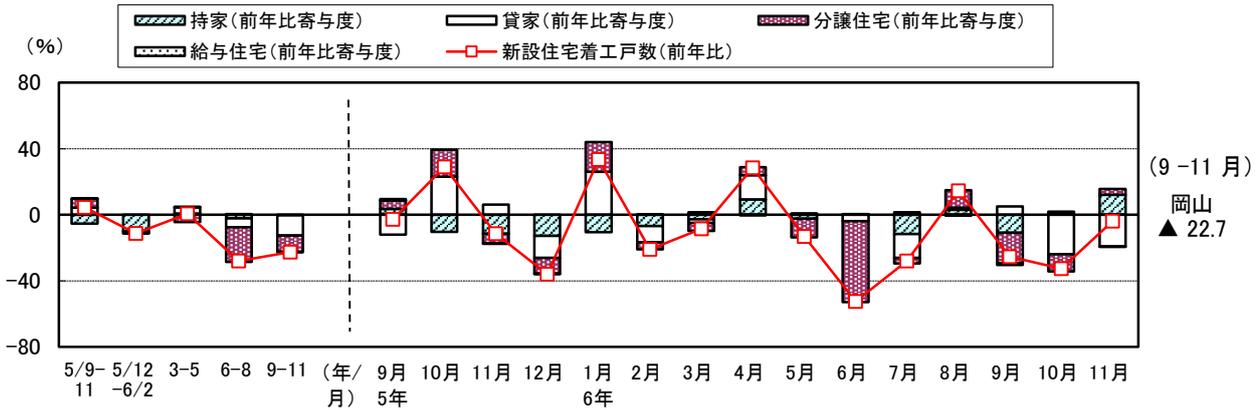


(注)当所法人企業景気予測調査(6年10~12月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

## 7.住宅建設 前年を下回っている

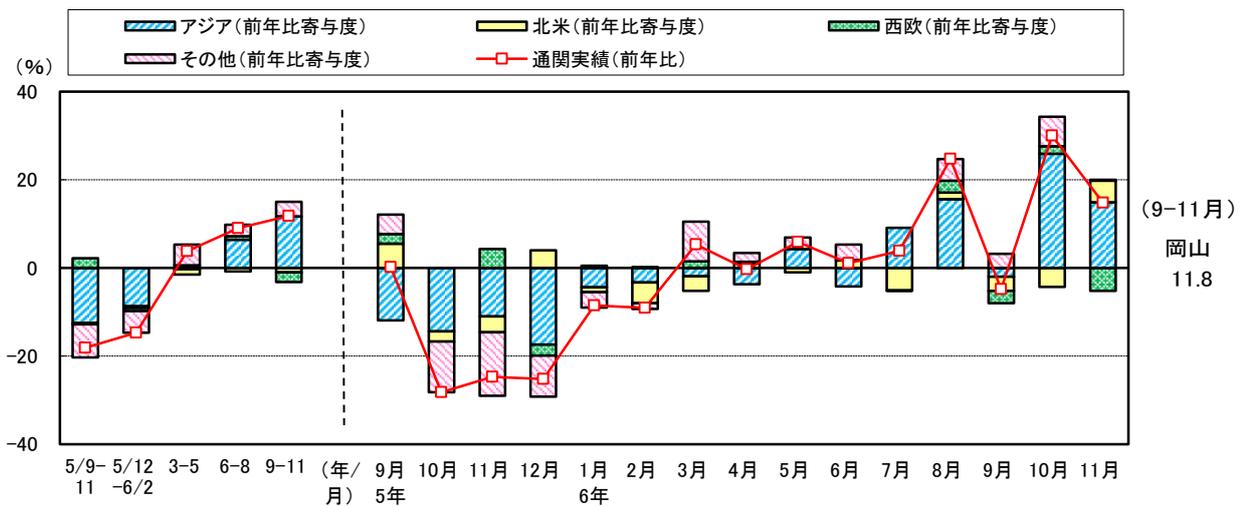
新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



(資料出所:国土交通省)

## 8.輸出 前年を上回っている

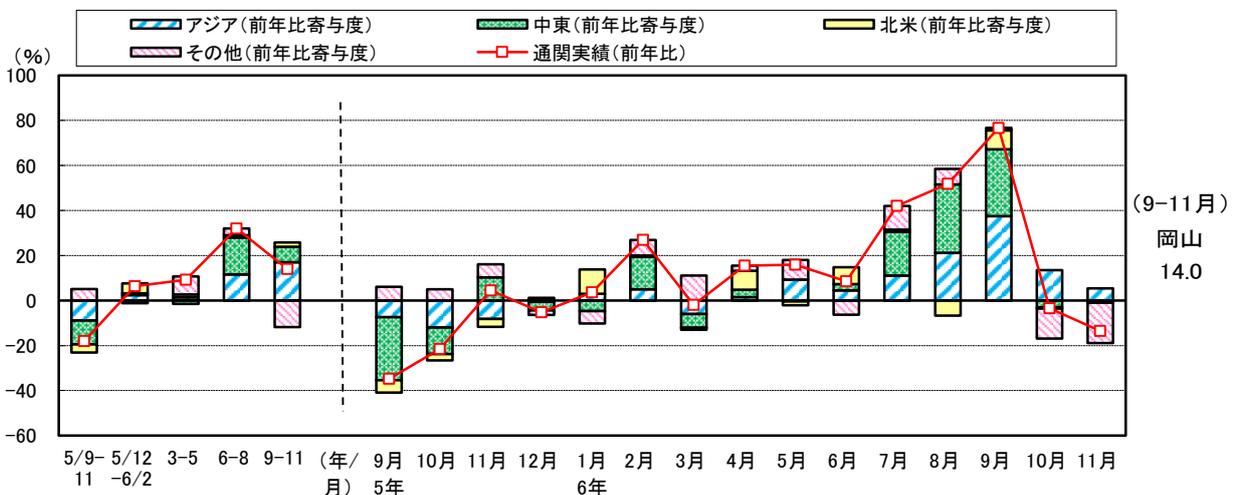
輸出(円ベース)



(資料出所:神戸税関)

### <参考>

輸入(円ベース)



(資料出所:神戸税関)